

## 令和3年度富山市民学習センター運営協議会 会議録

日 時 令和4年2月18日(金) 10:00～11:40  
場 所 富山市民学習センター4階 講義室1  
出席者 委員側  
藤田公仁子、上野幸夫、鈴木真由美、布村昇、大島麻美、木本秀樹、  
田中裕子、永田円了、犬島勉、高城喜代子、橘恵子、山本弘子  
事務局側  
金山靖(事務局長)、高橋祐子(生涯学習課長)、  
水上豊(市民学習センター所長)、島崎幸仁(市民学習センター次長)、  
定塚奈々(主査)、松井琴美(主事)

藤田議長 議事の資料の説明を事務局にお願いします。

島崎次長 「令和3年度市民学習センター事業等について」の説明  
施設概要、事業概要、年間事業、市民大学開設事業、受講者年齢構成、  
受講者居住地域、受講者年齢構成比率、受講者数等の推移、  
受講者アンケート集計結果  
「令和4年度市民学習センター事業計画案について」の説明  
令和4年度事業計画案、令和4年度富山市民大学の概略、  
2022 富山市民大学要項

藤田議長 ありがとうございます。令和3年度市民学習センターの事業、そして、  
令和4年度市民学習センターの事業計画についての説明をいただきました。  
アンケート結果を見ますと、素晴らしい成果が出てきているという報告  
をいただいたのかなと思っております。学ぶ楽しみというところ、生涯学  
習の結果が出てきているということは、市民学習センターの積み重ねたも  
の、そして、講師陣の努力の成果ではないかなと賜りました。  
この事業についてご質問やご意見ありましたらお願いいたします。令和  
3年度についての説明、令和4年度についての説明、あわせて伺いたいと  
思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。いかがでしょうか。  
はい。布村委員さん、お願いいたします。

布村委員      ご説明ありがとうございました。1点目に、今ご説明いただきましたアンケートで、資料20ページ、21ページの16、17で市民の方の「人生を豊かにする」ために、「質の高い、充実した講座」、「他では実施していない講座」、「専門性の高い講座」そういったものを要望する方が多いと思います。2022年度の内容は、それに答えている。市民のニーズを捉えているなど思いました。そして、講師の方々のお顔ぶれを拝見しますと、実際に現場で取り組んでおられる人がたくさんおられまして、自分で一生懸命取り組んでいる姿勢が伝わるという場面が多く、これが1つ市民大学の人気の理由なのではないかなと思います。

それから、昨年度の運営協議会でも話をされたようないろんな内容が特別講演会という形で、反映されているということが大変ありがたいかと思っております。市民の方々のニーズというのを捉えていることが大事ですが、時にはニーズがあまり良くなくてもやるということも必要ではないかなと思います。コロナ禍が予想より長引いているわけですがけれども、生命の危険がある方、あるいは生活が大変な方、そういった人に対しては、政治が真正面から行くべき問題ですけど、行事が中止になって、それからいろんなところの集まりが中止になって、触れ合いは工夫してほしいですね。充実させるということが必要なのかなと思いました。

それから、コロナとともにデジタル化がずいぶん進んできてまして、ネットリテラシーの問題もありますけども、スキルとカリテラシーはいろいろやっています。考え方は、若い人に軍配があるような気がしてまして、こういった部分が解決できないかなと感じております。

それから、特別講演会にもありましたけど、防災のことについてであります。富山県の方は、「雪が降るけど、井戸もない」と言われていて、防災意識がなくなっている。これはいろんなものが防災関係のことをやっているけども、これも市民大学として、やれないかと感じております。

最後ですけど、以前から言っていることですが、割と富山県のアイデンティティというか、富山県と富山の人の独自性というものの、こういったものがマニュアルとして、まだまだ考えられないかなという気がします。今、テレビでは、富山の面白いものを紹介してくれますけど、富山の自然や富山の歴史、それから、経済活動、そういったものは全部今後に繋がっていくものなので、こういったところを総合的な講座でできないかなというところちょっと感じております。抽象的で申し訳ないのですが、以上のことを感じております。

藤田議長 はい、ありがとうございます。今、お話に自然が出ておりました。例えば、「立山黒部ジオパークを知る」というコースがありますので、自然を幅広くとらえているのかなと思います。あと、市民学習の機会というところは、実は富山県生涯学習課、市民学習センターや富山大学、他の大学も取り組んでおりますけど、それぞれ公開講座を行っておりますので、そちらを皆さん受講生として行き来しています。ですから、トータルというところで、現在、いろんな形で、学ぶ機会というのは、提供できているのではないかなと思っております。1つのところで補うというよりは、何を求め、そして、何を学ぶかによってどういう人生が豊かなになるかというところをどう達成しているのかが、今回のこのアンケートの結果ではないかなというふうに見ておりました。おうち時間が増えておりますし、with コロナということもございますので、この期間をどういうふうに凌いでいくのか、それから、テクノロジーというところ、オンラインが中心というのは、どこの生涯学習機関も悩みを抱えております。正直申しまして、オンラインというものに対して、距離感を持っている方も中にはいらっしゃいますので、誰もが学べる社会ということをどのようにしていくのかというところは、今、悩みを抱えているところではないかなと思っております。生涯学習そのもので、考えて処理していくというところも、市民学習センターの特徴かなと思いつつ、布村委員さんの細やかな意見だと伺っておりました。ありがとうございました。

それではいかがでしょうか。はい。永田委員さん、お願いいたします。

永田委員 アンケートについてですが、「講義内容に満足である」という人が90%以上は、講師としてうれしいなと思うのですが、もう少し形のあるものが欲しいなと思います。もうこれでいいと思ったらこのままで、やっぱりもっと向上していくために、何かもっと吸い上げることができないかというふうに思っております。アンケートの質問項目がありますけど、例えば、「講義内容に満足である」に対し、「とてもあてはまる」、「まあまああてはまる」というような肯定的な「そうでしょ」というような言い方。質問をどうするかによって影響が変わってくるというわけですね。ですから、最初の聞き方ですね、これによって随分数字がちがう場合があります。この辺りを少し考えていく必要があるのかなと思います。例えば、「とても満足である」、「満足しない」という人たちの意見をどう吸い上げるか。例えば、2や1とかあったときに、例えば下にかっこを入れて、「理由をよかったです書いてください」という形で何か吸い上げていくような形へしていく。今

は、大体 90%が「よかった」で終わってしまう。特にお年寄りには、逆らうことよりも同調する価値観が多いですから、あまり講師の人のことを悪く言いたくないって気持ちもどうしても心理的にあります。聞き方としては、緩やかな聞き方で、本音を吸い上げていくような形の文言の使い方だと思えますが、そういうふうに見てみたらどうかと感じました。以上です。

藤田議長 はい。ご提案もありますが、アンケート報告について、どうでしょうか。事務局の方で、項目立てのときの聞き方になにかありましたら、お話しただけならと思います。

島崎次長 アンケートの聞き方につきまして、先生がおっしゃられた通り、見直す内容がたくさんあるとこちらの方も思っております。ただ、受講者の皆さんに自由記述のところでは、非常にいろんな意見、否定的な意見を書いていただいている部分も多々あります。こちらとしては、それを踏まえて、次年度のコース編成に携わるという形をとっております。必ずしもこの肯定的な意見が、大多数を占めたということで、私ども満足しているわけではありませぬので、ただいまおっしゃられたような聞き方については、今一度見直していきたいと思っております。

藤田議長 社会調査と同じようなことですが、アンケートを作っていく上で、やはり自由記述というところが、アンケート回答する方があまり負担にならないようにということも考えていかないとはいけません。アンケートは、実はこちらの集計率が高いです。アンケートを記入する受講者さんとしては、高いというところで、やはり回答しやすいアンケートを作られていると見ておりました。本当にアンケート項目とか、面倒くさくなってくると、途中でやめてしまうというのもあるので、難しいところも、工夫をなされているのかなというふうに察しております。下の方に受講しての感想をお書きくださいというところで表れているのかなと思いますけれども、アンケートについても次年度に向けて、もう 1 回ご検討いただくということでいかがでしょうか。伺って、お願いしたいということにさせていただきたいと思えます。このアンケートは講師の先生へバックといえますか、お伝えることはされているでしょうか。

島崎次長 ご希望があった先生には、お見せしたりもしています。

藤田議長 はい、わかりました。次年度に向けてという形で伺いました。  
他ございませんでしょうか。  
それでは、田中委員さん、いかがでしょうか。

田中委員 はい。アンケートで肯定的で感謝しているという方が多く見られたと読ませていただきまして、講師としまして、私の方こそ感謝していますという気持ちでいっぱいです。いろんな背景もありますけれども、単純に受けとめて、大変うれしいことです。

外出を控えたことで、体力が落ちていく中で、マスク着用での運動ということで、私も十分配慮しているつもりですが、体調を悪くされる方や残念ながら、お怪我をされる方も出まして、その時にセンターの方が迅速にサポートしていただけてとても助かりました。それ以外にも、密を避けるためにマーカーを置いていただいたり、遠くからでも見本の動きが見えるように毎回平台を設置していただいたりと、本当にいろんな配慮をいただいたおかげで無事に最後まで、今年度は12月まで講義がありましたけれども、終えることができ、最後までたくさんの方に参加していただいたことに本当に感謝の気持ちでいっぱいです。運動だけではなく、爽快感や達成感を得ることが、喜びに繋がり、それを継続していくことで、健康寿命の延伸にも繋がると思っております。受講者の方自身が健康であることはもちろんですが、地域でリーダーとして活躍されている方も多くいらっしゃいますので、そういう方たちにできること、実際にはストレッチや脳トレの運動など、なんですけれども、1つでもお土産として持って帰っていただけて、役立てていただければなというふうに思っております。今後、私自身も学んでそういうことにつなげていきたいと思っております。以上です。ありがとうございました。

藤田議長 ありがとうございます。マスク着用ということではいろんなところで、講師の先生がご苦労なさっているかなと思います。次年度もコロナ禍が続きますので、マスク着用ということで、また今回混雑というところで、合唱みたいに残念な報告もありました。実は、本学で今年度合唱がありました。市民学習センターの受講者様が流れてきておりました。窓を開けて大変な思いをしながら、今年度で終了でございますけれども、実施いただきました。そうしましたら、出てくる言葉が「市民学習センターの方が楽しかった」。うちは、ドイツ歌曲を歌うという講座ですけれども、やはりそういう比較が出てくるのかなという競争的というところを感じております。

このマスク着用というところ、まだまだ続いていくと感じております。  
それでは、犬島委員さん、お願いいたします。

犬島委員

はい。先ほどの市民大学は昭和 53 年にスタートしたというお話がありましたけども、実は私、現役の時に、市の公会堂というのが今の ANA のホテルとところにありまして、そこで市民大学が開講された時に受講いたしました。それも仕事が終わってから、行きました。1 年間終わったら、修了証書をいただきました。その記憶がございます。何十年かして、リタイアしまして、市民大学に 10 年間お世話になっています。リタイア後の自分の生活のリズムを作るのに、市民大学はとてもありがたかった。これがあったので、現役を退いた時の虚無感というか、どうしていいかわからなかったときに、とてもいい場だったというのを 10 年経ってもそう思います。せっかくの場ですから、2 つ、お話をしてお願いをしたいなと思います。

1 つは、市民大学の中で、富山大学の鈴木信昭先生に、いろいろ講義していただいて、いろんな話を伺っていたのですが、その中で、私が 1 番最初に気づいたのは、小中学校で教えられてきて、頭の中に組み込まれている事実が「事実ではないよ」という話がありました。そこで、「これは、どこかで学び直しの方ができないですか」と言うと、「それは無理や。不特定多数の人に見直しの場を提供するなんていうのは、無理。それは、自分で勉強するしかないよ。」という話をされました。自分でというのはなかなか難しいのでこれからが意見です。今、マスコミで、正直テレビを見ないですけど、たまに見ると、実は富山大学に優秀で若い先生がいっぱいおられて、その方がやっぱり精力的に活躍をされているのを目にしたり、耳にしたりします。そういうことをちょっとだけお裾分けしていただけたらなあ、できたらありがたいなと。これ、大学の公開講座で受けることになっていると思いますけれども、なかなか私は、その大学の高いハードルを越えて入るといえるのは難しいので、ぜひ、市民大学の中で学び直しに似たような新しい見方、考え方についてちょっとご紹介をいただける場があったらいいなと思います。

2 つ目ですね。ちょっと辛口になりますが、実は前任の奥井さんから引き継ぎを受けておりまして、その話がどういう話かといいますと、「協議会というのは、市民大学の今後のある程度方針が決められる場だと思っている。」奥井さんがおっしゃるのは、「来た人に印象良く、何かに興味を持ってもらえるような運用をしていくためには、申し訳ないですけども、講師の先生方の定年制というものを私が提案した。それがどうなっているかお

前ちゃんと確認しといてくれ」と引継ぎを受けました。昨年、初めての会議に参加しましたので、そういう話が出るのかなと思っていただけ、出てこなかった。非常に難しい問題だと思います。だけど、どこかで考える必要がある気がします。以上です。

藤田議長 はい。本当に貴重なご意見ありがとうございます。まず、1点目ですけれども、本学の教員、本当に多くお世話になっております。若手の教員もお世話になっております。その面については、本当に協力体制が取れているのかなというふうに思っております。

後半の方ですけれども、どう考えていくというところ、どこの場で協議していくのかということがあるかなというふうに思っています。事務局の方で何かありますか、それともご意見として賜るということでしょうか。いかがでしょうか。

島崎次長 講師の方の定年につきましては今のところ、実は考えておりません。ただ、先生の体調だとかそういったことは担当の方からいろいろ聞いておりました、こちらの方から先生にお願いする場合があります。先生の体調を考えてそろそろという言い方は変ですけど、そういった場合があります。先生の気持ちとかそのやる気とか、そういったことで年齢を区切るとかそういったことは今のところは、実は考えておりません。

藤田議長 はい。「生涯現役」という言葉がありますので、そこをどのようにしていくかということなのです。本当に先生のご体調に合わせながら、相談して進んでいければなというところもあるかなというふうには思いますけれども、今後に対してのそういうご意見があったということ、厳しいご意見だったかなと賜っております。

大学の協力体制のことがありましたので、鈴木委員さん、いかがでしょうか。

鈴木委員 はい。富山県立大学の工学部は射水市にありますけれども、看護学部は富山市にあるので、もちろん工学部も協力できることがあればご相談いただければと思っております。こちら拝見させていただいて個人的に思ったことを少しだけお話させていただければと思います。

アンケートを拝見していて、今年度限りかもしれないですけれども、60歳代の方の少し割合が減っているということを分析されていたのですけれ

ども、分析が15ページにありまして、そのあとに、21ページにコース委員という制度がちょっと難しくなっている。コース委員とは、多分コースをサポートして下さるとかではないかと思うんですが、ちょっと少なくなっているというような課題が書かれてございました。おそらく、コース委員をされる方は、若くて元気な方なのではないかなと思いますので、ずっとこの60歳代の方が少なくなっている現状が継続すると、運営自体を考えていかなければならないのかなというふうに感じました。こちらにつきましては、コロナという状況もありますので、1年2年で結論を出すことではないかもしれないですけども、60歳代の方がずっと減っていくということであれば、何かしらこのコース委員制度を少し修正するとかですね、あるいは50、60歳の方を取り込んでいく。そういうようなご検討をされるとよろしいのかなというふうに思っております。

あともう1点ですけども、18ページの一番下のところに、「さらに学習に自主的に取り組んでいる」というところの回答がちょっと肯定的な回答している方も半分ぐらいいらっしゃるということですけども、昨年より減っているというような傾向が出ています。こちらについては、理由など書かれていないとは思いますが、このコースが終わった後に、自分でどうすればいいのか、どうしたらもっと学べるのかということ为例え、コース内で、講師の先生にご指導いただくとか、あるいはアドバンス的な応用的なコースをまた作っていただくというようなこともできれば、継続して市民の方々が自分でどんどん学んで、もっと高みにいきたいと思ったときに、どこで機会をいただけたらとか、自分でどうやって探したらいいかというのがわかって、生涯学習が進んでいくのかなというふうにも感じております。

あと、19ページの真ん中辺りですね。質疑応答の時間が欲しいという意見があったということで、こちらについては、コースごとにいろいろあるとは思いますが、皆さん、学習意欲のある方が来られていると思いますので、ぜひ、こういった機会をいれていただいて、さらなる学びの機会に繋げていただければというふうに感じました。感想ばかりで申し訳ありませんが、以上です。

藤田議長

市民大学の特徴としまして、自分たちでその上の学習会というのを決定いただきまして、自主的に運営なさって力を注ぐ素晴らしい特徴があるわけです。ここがすごく魅力的ですけども、ただ今コロナ禍ということで、少し抑えぎみにまた難しくなっているのかなと思いますが、そういう



ふうに判断して、よろしいでしょうか。

島崎次長 はい。大学修了された方々を中心としてサークルを作られて、以前は30以上あったのですが、最近は少し減っていますけれども、皆さんサークルとして、より専門的にグループを作って、学習を続けておられるというのが現状です。

鈴木委員 はい。ありがとうございます。勉強不足で申し訳ございません。

藤田議長 ここが素晴らしい学びっぱなしではないということですね。そこが、市民学習センターの魅力となっている。また、それが大学祭の発表とかいろいろんな形でということがあるかなと思うところです。

あとは、講師の先生との工夫というところで、どう解決していく。Afterコロナに向けて、歯がゆいところがあるというふうに思っております。

はい。それでは、大島委員さん、ございましたら、お願いいたします。

大島委員 講師の立場から言いますと、先ほど永田委員さんがおっしゃったようにアンケートで良いという意見ばかりじゃなくて、こういうことをしていただきたいということがあれば、また伝えていただきたいと思います。

私、日本画ですけれども、15回で完結というのは、すごいハードで、多分生徒の皆さんもパーと終わって、もう1回と思ったときは、また最初からと思われるけれども、終わられた方は自主的にサークルを作ってやっていらっしゃる方もいらっしゃいます。さっき言われた通り、もう1段階があると、日本画がちょっと楽かなっていうところもあります。本当は2回で1回ぐらいのペースで、やっとできるかなというところもあります。そこは今コロナ禍で人数を減らしておりますし、そこはちょっと悩むところだなと思いますけれども、これをきっかけに日本画をやられる方、市展や県展まで出される方もいらっしゃるの、そこは生涯学習へのきっかけとしては、とても素晴らしいことだなと思っております。以上です。

藤田議長 ありがとうございます。コロナ禍で体験講座を実施しているというのは、なかなかご苦労なさっていると感じているところです。本当に今回の報告の中で、ほぼ講座が終了しているという実施できたということが克服なさっているのかなということを察するところでございます。

それでは、高城委員さん、いかがでしょうか。

高城委員

昨年、市民大学は休みだったですけども、今年度、大学祭ができて、市民大学がなんてありがたいのだろうと思いました。私、日本画をやっているのですが、作品が展示できることは励みになるので大変ご努力されたと思いますけども、開催していただいて、本当にありがたかったなと思っています。

12月の日曜日、講師の先生と、受講者の交流の時間がホテルでありますよね。私は、1回だけ参加したことがありますけど、楽しくて講義時は、先生と自主的にお話をしないのですが、この時はでき、これから毎年参加しようと思ったら、コロナ禍でしょうがないですけど、またあったらうれしいです。

あと、先ほどコース委員のなり手が少ないというのがあったですけども、私は今年度、初めてやったけど、私70歳ですけど、50代、60代よりやる気満々なので、やる気があるコース委員、70代でもいけると思うのです。コース委員をやって、昨年の暮れに教室に通っておられた方が亡くなられたのです。それで、その方は作品も出されて展示していて、新聞で見ても、何かどうすればいいんだろうと思いました。15回ご一緒していたということで、お参りにいこうかどうしようか考えたのですけども、結局は、個人的な付き合いがあったわけではないので、何もしていませんけれども、同じメンバーが亡くなられて、ちょっと気持ちが焦りました。日本画で人数も少ないし、回数も10回より多いので気持ちが深くなってしまいました。

あと、私の友達からいっぱい意見を聞いたのですけど、いいイメージと悪いイメージがあるのですけども、行きたい講座が同じ曜日で何年も同じだったら、生活の中の都合で行きたいけど、いけないというコースがあります。曜日が変わればいいという意見がありました。でも、これ見ていたらこの1コースだけ曜日が変わったとありますけども、毎年同じ曜日同じ時間帯でそれがありがたいという人もおられると思うので、そういう意見もありましたので、お知らせしておきます。

藤田議長

今、コース委員の話が出てまいりましたけれど、「学習縁」いう言葉ですね。やはり同じ時間を過ごした「学習縁」の絆、結束というところをお話いただいたかなあというふうに感じているところでございます。これも「学びの縁」を求めて受講されているのではないかなと思っています。

はい。それでは、橘委員さんいかがでしょうか。

橋委員 先ほどから聞いていたのですけども、アンケートについて、私は書く側でしたが、確かに今までのアンケートは、休憩時間に簡単にパッと書いて終わるようにさっき永田先生がおっしゃったように、書きやすいようにしてくださっているのかなと、今までそんなこと考えたことなかったですけども改めて気づかされました。あと、もう少しアンケート内容を変えていただいたら、少し皆さんの本音を引き出して、何かもう少し変えていけるのではないかということも思いました。

個人的にずっと思っているのですけども、富山市民大学は、他にない、大きい組織っていうか、県外の方ですけども、「こういうのを絶やしちゃいけないよ」と2人の方は言われて、自分もそう思っているので、「そうだね」と言っていました。最近のコースが少しずつ少なくなっていっているのですけれども、来年度からは「庭木・花木の剪定方法と育て方」がなくなったなら、もう1度講師を探していただいて、復活できないのかなということアンケートにも何回か書いたような気がするのですけども、結構人気もあったと思うのです。大学祭のときもそういうもの展示したら、華があるし、いいと思いますけども、そういうのはまた復活させていただくことはできますか。

島崎次長 実を言いますと、今おっしゃられたコースについては、非常に人気のあるコースでしたので、こちらとしては、全く廃止するつもりのないコースだったのですが、先生の事情で、続けられないということで、仕方なくこういう形になっています。その際に、次、誰かやっていただけませんかということで、こちらで講師探しをした上、見つからなかったもので、やむなくこういう状態となりました。もし、先生がおられて、15コマ程度やっていただける先生がおられれば、やるという考えはあります。

橋委員 ありがとうございます。何か皆さんも探していただければということですよね。はい。以上だったらありがとうございます。

藤田議長 ありがとうございます。  
もうお答えいただきましたので、山本委員さん、お願いいたします。

山本委員 令和2年度は後期だけの市民大学、今年度は、8月・9月は休講ということだったのですけど、私達は仕事をやめてしまって、時間がたくさんあ

るからこそ、今日出かける用事があるということは、生活の1つのルールづくりになっているというお話があったですけれども、お休みになってしまうと、ちょっと意欲が減退してしまう。例えば、今年度の場合も8月・9月お休みで、その後また市民大学が再開したのですが、一歩出るのにハードルがちょっと高くなったような気持ちがありました。コロナ禍で、やむを得ないことではあったのですが、ぜひまた継続的に開催していただけたらありがたいなと思いました。

それから私の個人的なことですが、コロナでお休みが続いた時に、孫の布マスクづくりが1つのきっかけになって、それまで使っていなかったミシンを引っ張り出して、縫物を始めたのです。ある先輩の方から、「こんなところで洋裁を習っているよ」というお話を伺って、ずっとタンスに眠っていた着物ですとか帯をリメイク始めました。今、冬場で休んでいますけど、洋裁習いに行き始めたのです。今まで自分はこのことをやると思わなかったのですが、そういうことに出会って、すごく楽しくなってきました。だからきっかけは、どこかにチャンスがあれば、新たな何かそういう楽しみが増えていくのかなということを思って、そういう意味では市民大学の講義もそういうきっかけ作りが繋がっているのではないかなと思っています。

私は今年度、2つの講義を受講したのですが、それ以外にもこの内容だったらちょっと講義に聞いてみたいなっていうのが、たくさんですね。なかなかその10回の講義まではいけないし、何か単発で参加できるような機会があればいいなんてことを前々から思っていたのですが、特別講義をやっていただくのはそういう機会にはなっていると思います。実際に廃止コースとかそういうものの中でも、このコースの講義はぜひ受けたいなっていうのを、何か認めてもらう機会が1回あればと思います。難しいことかもしれないのですが、あればありがたいなということを思っています。

それから先ほど、アンケートのお話がありましたけど、学習センターの立場からやられるアンケートももちろんいろいろ改善というお話もありました。私、コース委員をしていたのですが、大学祭にパネルを作るときに、受講者同士で受講者がどういう思いでやったのかってことで、こちらの方でアンケートを作って、自由記述で記入してもらったものをパソコンで打って、パネル展示したのですが、皆さんやっぱり自分の生活の見直しとか、素晴らしい講義に対して先生に感謝の思いを持ってらっしゃる生の言葉とか聞けるので、何かやっぱり受講者の中での吸い上げというこ

とも、機会ととらえて、受講者同士でやることもいいことかなということも思ったりしています。たまたま、今年度コース委員のいないコースも作るのを協力したのですが、その時全く講義を受けてない自分が、パネル作成をするなんてできないことだなと思って、受講者の方に少しご意見をいただき、そういう発想カードをちょっと作って書いていただいた。受講者の方も自分の学びをそこに反映できますし、パネルづくりに役立てることができてよかったなと思っています。だから、受講者の立場でのそういうこともぜひ、また吸い上げる機会を持っていただく。こんなことができますよということをまた皆さんにお声掛けしていただくこともいいかなってことをお伝えしています。

コース委員のなり手が無いという話も先ほどありましたが、創作コースは、意外と皆さんそんなに負担に思われないと思うのですね。座学のほうが、大学祭のパネルづくりが1つのハードルが高いものになって、何かそういうまとめる機会が今までなかった人にとってはすごく負担になっているよだというご意見をいっぱい聞くのですね。ですから、何かそこで今ちょっと前に話したご意見なんかを皆さんから吸い上げて、それをまとめていくようなそういったスタイルであれば、コース委員に少しでも気軽になっていただけるのかなと思ったりしています。とりとめのない事を話しましたけれども、こうやってきっかけ作りとして、提供してくださっている「学びの輪」をぜひこれからも継続していただければありがたいなと思っています。以上です。

藤田議長　とてもいいご意見を伺いました。受講者として、普段から思っていることを伺えたかなと思っております。

それでは、そういう意見も踏まえた上で、上野先生、お願いしてもよろしいでしょうか。

上野委員　皆さんの意見に同感です。アンケートを見せていただいて、資料の10、11ページで、やはり旧富山市内が多いということで、合併町村の方々は、なかなか遠隔地であるというのもあるのでしょうか。何かいい方法を今の時代ですので、Zoom だとかこういったもので、地区センターみたいなところで公開講座を受けられる体制とか、あとは、合併した地区の方も自分たちは遠くなかなか聞けないということが解消されるのかなと思います。市民全体に機会を与えて、より講座を増やしていく方法もあるのかなと思います。とりあえず、どこかで実験的にやってみるとか、大型の画面で席を作る。ほかのところでもそんなことをやっているところがありまして、そう

いった方法を使うこともできるかなという感じです。

それと、アンケートの中で、「初めて受講する」という方が5%増加ということで、やっぱり、後ろの方にあるアンケートの最後に書いてあるとおり、「コロナ禍でなかなか受講できなかった」、「受ける機会も少ない」、「以前の状態に戻ることを期待する」とか、そういった学びたいという気持ちの中で学べなかった状態の中、開講されているので、増えているのだと思いますので、よかったと思います。「初めてコースを受講した」もこれもすごく多い。うまく進んでいると感じました。

次に、1人2コース、先ほど言ったご意見にもありましたけども、もう少しコースを受講したいという方もおられるようですので、コロナ禍との関係を踏まえて、35%増えた。場合によってはそれほど広まっていなければ、もう少し増やしてもいいのかなという思いがしました。1コースだけというのは、着手してみると、ちょっと足りない。

やっぱり70歳代が一番多かったということもあって、19ページの情報取得方法ですね。これは前からこの話をしている、広報とやまが一番多く、コースの内容や概要を調べて、ホームページに全員がという形ではないと思いますので、50歳代の方々に来ていただけるように、やっぱりホームページと並行しながらやっていく必要がある。19ページの上のところにある、「現地学習が中止になって残念」ということで、私もその歴史系講座に関わっている関係でやっぱり歴史だとかはその現地で、生で感じて、説明を受けるとより感動する。座学だけから繋いでやるのは全然違う。それで安心も大きくなる。あとは物を作る。そういったものも、やっぱり現地で体感するということがすごくある。これもコロナ禍でなかなか難しいという部分がありますが、近年、比較的外だと、2メートルとか、ある程度の距離を保てば問題がない内容ですので、そういった現地学習については、復活できるものがあれば、ケースバイケースで行えればいいと思います。以上です。

藤田議長        はい、ありがとうございます。オンラインという話もでてまいりましたけど、次年度は対面ということでしょうか。

島崎次長        オンラインとか、新しいそういった時代になっているので、こちらの方としても、調査研究というか、どういうことが可能なのかということは今、検討しているところではあります。来年、再来年にすぐできるかということ、まだそこまではいっておりません。

藤田議長      ありがとうございます。本当にアンケートのことで、いろいろなご意見をいただいているかなというふうに思っております。それでは、木本委員さん、お願いします。

木本委員      本当にコロナ禍、よくやっていただいたなという実感がございます。もう皆さんおっしゃったことかもしれませんが、やっぱりデジタル化というのは、普通の流れになってきているなということはもちろんございます。オンラインの部分も含めてですね、そういう設備を図っていただきたいなと思っております。私もちょっとオンラインでやらせていただいた事があったのですが、結構その遠隔地から反応もあるというのは、よかったなと思ってもいいと思っております。

それから、現在、県内にいろんな施設がある中で、例えば、既存の施設の開放問題みたいなものは、ちょっとこれから考えていくことも必要かなというふうに思います。広い意味での関わり、市民の皆さんそれはわかってらっしゃるので、それらのところのやりくりですね、どのようにかなり改善していくかということは、ぜひこれから考えていただければなというふうに思います。

それから、「より専門性を求めたい」というのは、ご意見もあったということをお認めます。私、コースでいろんなことを行っております、例えば10回やって、1人で10回やっておられることもあるのですが、ちょっとないものねだりかもしれませんが、例えば、1人で2つの時間を持ってやられたら、何かより深いことも追究できるのかなあというそんなことをずっと感じたりしまして、単年度じゃなくて、例えば、2年とか3年とか、継続性を持ったような設定みたいなものが、もし、あったら楽しいなとぜひ受けてみたいと思うものもございました。

それから、いろんな意味で工夫している隣接分野をいろんな形で取り入れておられる。講師の方がよくやってらっしゃるなということですけども、そういう意味で、これからさらに学際的な構成みたいなものをちょっと取り入れて考える。ただし、市民の方にはわかりやすくというようなことをちょっと思っております。ちょっと個人的なことを申し上げますと、私は歴史学の方を担当させていただいておりますけれども、従来からの古文書や史料を読むという中身にプラス何かぜひ歴史社会学みたいなものをちょっと取り入れてみるとか、あるいは食文化のほうもちょっと担当させていただきましてけれども、今の食科学みたいなものに、目線を向けていただけ

るようにしたら、また、食いついていただけじゃないかなと思います。

それから新しいなんていうのでしょうか、地域といいますか。生活チームみたいなそういったものにアプローチできたらいいなというふうに、受ける側の立場としてもやっぱりそんなふうに思っております。

コース委員についてですが、この中にもなさっておられるということなのですが、受講生と講師を結ぶということなのだろうと思います。そういった方々は、大事なものだというふうに思っています。そういう仲立ちとなる方に入っていただくと、より活性化を図れるのではないかなという意味で、以前にもちょっと会社でもありましたが、NPO 法人の方は、そういった形で取り入れた取り組みみたいなものがあるのだということもお伺いいたしましたけれども、そういう方法も1つあります。ちょっと意識的に、考えてみるということをどうかというふうに思います。それからよく人と人の関係性をより結ぶとするためにどうしたらいいのかということをおもうのですけれども、例えば、コースの中身は人文社会、自然とかですね。いろんな分野での分け方もある中、何かこう新しいジャンルみたいなものを再構成できないのかなあと。人と人とを結ぶコースが、ぜひ人を結ぶコースか、あるいは自然と人を結ぶコース、あるいは未知のものとかと既知のものと結ぶと、あるいは世代を結ぶとかですね。そういう新しい構成なんかもちょっとあるのではないかなということをおもって頭の中に絵描いています。本当にこれらのことを1年間通してやっておられるということに敬意を表したいと思っております。以上です。

藤田議長

はいありがとうございました。新しいチャレンジをしていただきたいという期待をされているところ、ご意見もあったかなと思っております。ただ今回、やはりアンケートを本当に皆さんよく見ていただいて、お話いただいたから、この数年間ここまでアンケートのことをご意見いただいたのは、初めてじゃないかなというふうに思っております。ご理解いただいたということです。今後に向けてというところはまたご検討というふうに思っております。ご意見、反省、またはこうなってほしいということは、次年度の講座、今後に向けて生かしてほしいと思っております。

言わせていただきたいことは、生涯学習機関は連携をとっております。広域のほうで連携をとっておりますして、年に1回だけ2ヶ所で、東と西に分かれまして、生涯学習機関で情報交換会というのをやっております。ですから、連携が取れてないということではないかなというふうに思っております。



それともう1つは、大学間でも連携をとっております。そういうところを見渡しながら、学習・相談・連携しておりますので、県内の全域は私どもの大学で行っているかなというふうに思っております。そういうような仕事が私の日々の仕事でございますけれども、そういうところをお手伝いさせていただけたらということをお話しさせていただいて、受けとめていただけたらなというふうに思っております。そうしましたら本当に意見の方は出尽くしたかなというふうに判断してよろしいでしょうか。

はい。永田委員さん。

永田委員 3点だけ。1つは犬島委員さんの講師の定年制に賛成いたします。私も、いろいろやっていますけどお願いする時はすごくお願いしやすいですね。やめてくださいと言にくいです。何か基準をもってですね、線を引いていたら、「だからリタイアしてください」と言いやすいですね。そういう点で、私は賛成いたします。

それから2点目が、鈴木委員が触れられました質問コーナーというのも、大賛成ですね。私も受講生100人くらいの時に、実験的にやってみた。そしたら出ないですね。100人ぐらいいて、シーンとしてしまって、やるとすれば団体を代表して1人とか、そういう形でしかないですね。提案なのですが、10回講座の2回もしくは3回、講座の後で30分ぐらい質問講座を別個に設けてもらって、人数も例えば7、8人とかで設定するという手もあるじゃないかな。100人で質問は普通でないですから。だからそういうこぢんまりとした構造があれば、面白いなと思いました。

3点目は時間的なことなのですが、ほとんどの午前中の講座は9時半からスタートですけれども、例えばこの協議会も10時スタートなので、難しい問題だと思いますが、10時だと出やすいですね。全くラッシュはないですから。9時半だとちょっとラッシュに引っかかるかなというふうに思うのです。家でお仕事されて、早く茶碗を洗っていこうかという、急がせない時間帯が10時じゃないかなと思います。もし、可能でしたらそういうのをご検討いただければ、10時からスタートして、12時もしくは11時半まで。そしたら、1時間半できますから。この3点です。以上です。

藤田議長 ありがとうございます。ご意見として賜るということでお願いしたいと思っております。また、検討していただくということで、お願いしたいと思っております。100名の場合、質問が出るかでないかということですが、出るときは出ます。出ないときはでません。質問についても、今後につい

て、考えていただきたいという点ですね。

ほかに大丈夫でしょうか。それでは、終了致します。皆様ご協力ありがとうございました。

水上所長 閉会あいさつ

閉会